

新たな出会いがいっぱい



▲約1時間にわたり、各ブースを自由に見て歩いた交流タイム。ブースでは、実際の活動の様子をまとめた紙や写真を掲示したり、ビデオを流したり、パンフレットを自由に持ち帰れるよう並べたりと工夫が見られました。活動の様子を興味深く聞き入る人、同じ思いに共感し話が盛り上がっている人、自分の活動の参考にしたいと詳しく質問する人、さまざまな形の交流がありました

後半は、今回参加した十団体による活動発表がスタート。一団体五分程度で、ビデオ上映やスライド、替え歌、寸劇などを交えながら、活動内容や地域とのかかわりに対する思いなどを紹介しました。その後、団体ごとに設けたブースを自由に見て歩くことができる交流タイム、参加者が全員で意見交換をするワークショッピングを行われました。

ワークショップでは、まちづくりや人材育成、学校改革など、地域の人たちがやりたいことを実現するためのサポート



▲時には笑いもあり、終始和やかな雰囲気で行われたワークショップ

レターとして全国を飛び回る清水義晴さんが進行役。「白石はいいですね。このような地域のまちづくり活動の場で、学校に参加してほしいと思つても、なかなか参加してもらうことが難しいんですよ」などと、他都市の状況も紹介しながら進められました。テンポのよい清水さんの進行も手伝つて、「活動の分野は違うけど同じ空気を感じる。一緒にまちを元気にする企画を立てませんか?」「もっと地域の人々が関わりやすい雰囲気づくりを工夫してはどうですか?」などと、さまざまな意見交換があなされ、一時間半という時間があつといふ間に。中でも多かったのは、「いろんな人と顔見知りになれることが大

切。日ごろ接する機会の少ない地域の人や、今までちょっと敷居が高いなど感じていた他の団体と、ざっくばらんな雰囲気で話ができるのが良かっただ」という意見。ここから新しい何かが生まれそうな、そんな胸がわくわくする一日でした。

※白石地区ネットワーク会議
白石地区の町内会や学校のPTA、老人クラブ、まちづくり団体など一一六団体で構成。各団体間の連携を深め、地域課題の解決を目指すと、平成十六年三月に設立された。六月から地区内の小学校五校の児童の安全を守ることを目的に、「通学パトロール隊」が始動。週一回、下校時のパトロールを行っている。

講師紹介

河田 珍子さん



昭和19年新潟県新発田市生まれ。平成2年、民間助け合い活動「新潟まごころヘルプ」を立ち上げ、平成9年には、地域の人々の交流の場として「地域の茶の間」を開始。さらに地域の茶の間の機能に宿泊も可能となった「うちの実家」を平成15年に設立させた。現在、ホームヘルパー養成研修講師、さわやか福祉財団理事、新潟県NPOサポートセンター理事などの要職を務めながら、地域の人々が交流を図る場を提供し、人々の孤独を解消することを理念として活動を行っている。



清水 義晴さん

昭和24年新潟県新潟市生まれ。現在、新潟県地域づくりアドバイザーを務める傍ら、グループで「町づくりコーディネーター養成講座」を運営するなど、新潟県仕掛け人会議の代表運営委員として、新潟の町おこしのネットワークと人材の発掘に尽力している。

平成11年4月からは、白石まちづくりハウスを会場に地域の人々が集まって開いているまちづくりワークショップ（白石商人街まちづくり講座）の講師も務めている。